

# 美術家はテクニシャンで

## なければならぬ

竹 岡 和 田 男

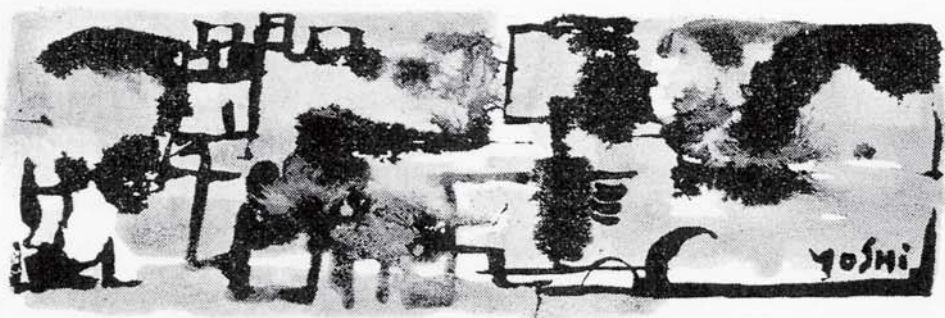
美術家はテクニシャンでなければならぬ。僕は最近つくづくこのことを感ずる。いや油絵の技法や工芸の技巧をうんぬんしようというのではない。ここでいうテクニクとは、作品の制作とは離れた生活のテクニク、もう少ししげれば政治のテクニクのことである。

話を美術館建設運動に例をとろう。いまさら北海道に美術館を建てるのがどんなに必要なのか、その意義をはじめから述べることはしないが、美術家たちが美術館を渴望している事実は明白である。それがなぜ建たないのか。それは為政者にすべての原因があるのではない。建たないから為政者が悪いときめつけるのは早断である。僕はもつと大きな責任を美術家自体が感じなければならぬと思う。美術家たちは、美術館がほしい焦つてはいても、その気持を建設実現に結びつける方法を研究しなかつた。つまりテ

クニクを知らなかつた。この世を左右する政治のテクニクをである。

純粹にものを考えて、自分の考えが正しいから岩をも通すというのはおよそ前近代的な思想である。いまなら自分が生きるためには権威の前に平伏し、他を傷つけ、弱点をつき、自分を護まねばならぬ。芸術家がいくら自分たちだけで誇りを感じていても、大きな世界の中で見たら、やはり無力にうごめく虫と変りはない。政治はそのような信念と感覚で営まれる。その中で自分たちの意志を貫徹するのに、ストレートな方法が通るわけではないのである。世の中のからくりを知り、世渡りの術を覚えなければ美術館は建たない。

美術家もテクニシャンでなければならぬ。僕は最近つくづくこのことを感ずる。



国	萬	組	旗	附	カ	バ
旗	国	合	旗	属	ップ	ツ
				品	楯	チ

各種製造販売

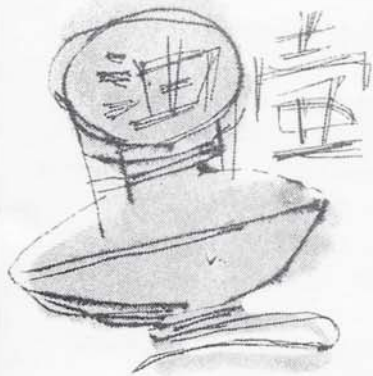


株式  
会社

山

禮

札幌市南一条西七丁目十二番地  
電話 ④3011 ④3012  
受信略号 「サツポロ」 ヤマレイ  
振替口座 小樽 2909 番



○  
この頃のように昔の概念が通用しなくなった時代はちよつとないでなかろうか。

階段がひとりてに動いて人を運び、札幌、東京間は日帰り出来、テレビを見れば、何百何千キロと離れている人でも、その声を聞き姿が見えるのである。さて絵の展覧会を覗くと油絵具はいつこえか姿を消し、布きれ、紙きれ、ペンキはまだしも泥やら、コンクリートやら、はてはキャンバスを破いて向こうの壁が絵の一部である様な絵がある。こういうのを見て「これが絵か？、実にけしからん。」と憤慨する人も中にはある様である。昔の概念を見ると誠にけしからんかも知れないが、頭の中を白紙にして見たら結構面白いんじゃないだろうか。階段がひとりて動くのに憤慨する人はいないが絵に腹を立てるのは「絵だけは昔のままていよ。」ということになりかねない。絵描きが観覧者の概念の枠をふみはずしてはいけない——としたら何と窮屈なことだろう。(義)

○  
「これは何を描いたのですか？」極めていんぎんである。「何をなどというものはありません。」頭に手をやりながら私も又いんぎんに答える。「それでも筆を持つ時は心の中に何かあったでしょう。」どうも追突急である。眼が光っている。「ハア、いや。」どうも返辞にはならない。

「何かあったようにも思うし、ない様にも思われる。」何もなくて絵が描けますか。」言葉が鋭くなって来た。どうも相手は腹を立てているらしい。相手にならなくてもいいのだが、私の作品ですと、こうして展覧会に並べると変に責任みたいものが湧いてきて何かしやべらなくてはならないようで、どうも悲しいことである。

私の絵は何もむつかしいことや深刻なことを描いたんぢやないんだから、のんびり見て貰いたいものだ。そして、好きだとか、嫌いだとか、一言聞かせて貰えれば一ヶ年苦

勞した甲斐があつたというものである。(義)

○札幌は文化都市である。詩の都である。どうしてそうなのか知らないが、文化都市なのである。  
大きなビルが林立し、自動車が多いからかもしれない。

○ビルと言えはよく次から次と建つものである。日本の代表的銀行が続々進出し、申し合せたように四角四面のビルを作る。  
まさか三角のビルを作れとはヘソをまげたいが、もつと美しいものが出来ないものだろうか。

○それにひきかえ、古い建物がみんななくなり。五番館、鉄道クラブ、豊平館、郵便局、等。すでに無くなつたものや、他に移されたもの、これからこわされたもの、僕らが子供の頃から親しみ多かつたサツボロを表徴する建物だつたのだが、無くなつたのはさびしい。かと言って、四角なビルの谷間に、置いておくのもどうかと思う。建物は、その開りのフニイキが必要だ。

○これで郵便局もなくなると、札幌の唯一の自慢の大通りも1丁目からずうつと広がる。  
花ダンになるのかと思つたらバスで取り合い。立体的バスセンターだそうなの。  
バスターミナルなど街のド真中、しかも公園の中にある必要はあるまい、街の中は停留所で沢山、大通りは市民の憩の場所にしてみらいたい。

○観光サツボロの自慢は大通りと、ポプラ並木、月寒の種羊場、時計台。  
大通りを除いてはポプラも羊もスツタモンダで見ること出来ない、時計台は一番交通量の多い処、あれよあれよという間に通り返る。何とか考えるべきだね。

○大通りは自慢できる。その大きさも美しさも、しかも街の真中にあるということも。  
今年は3丁目に大きな彫刻が立つ。大通りは花ダンと、彫刻の並ぶ日本一の公園にしたいものである。

○それから美術館と図書館。  
市民が何時でも出かけて静かに絵を見る美術館もないのは淋しい。  
大きな展覧会もやる場所がないとはおそまつである。図書館も間借りではお話しにならない。  
道路も下水もよくしなければならぬ。  
学校も作つてほしい。しかしそれと同時に美術館、図書館の計画も進めてほしいものだ。

○それから文化都市のかんばんをかけてもらいたいものだ。  
(HON)